

# 天理日仏文化協会こども日本語講座の取り組み⑩

## 5) 6年間の取り組みで見えてきたこと (前号よりの続き)

### 教科書に関する日仏の教育観の違い

現地校と日本語学習の両立を考慮して、2～4学年の国語の教科書をそれぞれ上巻と下巻に分け、2年間で学ぶ独自のカリキュラムへと、2006年9月から5年計画で移行していった。そのために、日本国政府から無償配布される年齢に応じた学年の教科書よりも、2組(2年生)以上の子供たちは、1、2学年下の教科書が必要となった。これは、6月末の保護者説明会において理解を求め、日本の書店にも在籍する人数分の教科書(光村図書版)を発注した。保護者としては、せっかく配布された教科書が使えて、日本の学校と同じ学年で学べる他校への転校を考えるのが当然だと思われたが、新学期には、転校する子供はほとんどなく、新たに約40名の新入生も加わった。そして、9月の新年度初日には、新品の教科書を購入した子供のほかに、兄弟や上級生のお下がりの教科書を持ってきた子供も多く見られた。

聞くところによると、フランスでは、教科書は個人の持ち物ではなく、学校から貸与されるのだという。もし、学年末に返却する際に、落書きなどで汚れていたり紛失したりすると、代金を弁償しなければならないそうだ。したがって、本校の子供たちにとっても、上級生のお下がりの教科書を使うことは、ごく当たり前のことで、その教科書には汚れを防ぐビニールや包み紙の手製カバーが掛けられ、子供たちは落書きなどもせず、次に回す人のために丁寧に扱っているのである。教科書一つのことでも、子供たちは、フランス流の合理的な儉約精神を身に付けていくのだと感心した。それに比べて、毎年新品の教科書もらえる日本の子供たちが、果たして恵まれているのかどうかは、はなはだ疑問である。日仏間の教科書に関する考え方の違いから、教育観の違いまで見えてくるような気さえた。

それでも、数年ごとの指導要領の改訂により教科書が改訂される年度だけは、お下がりの教科書は使えなくなるために、保護者は教科書代金を負担しなければならない。また、指導上にも、改訂時期には、様々な不都合が出てくる。たとえば、同学年の教科書を、2年間かけて学ぶクラスでは、上巻を終えた翌年に改訂されると、下巻でその学年で習うべき新出漢字が教科書に出てこない場合があるのだ。そこで、事前に教師間で改訂内容を念入りにチェックし、新出漢字の補足プリントを用意するなど、漏れ落ちを防ぐ対策を取らなければならないのである。


### 家庭での音読支援が力になる

さて、各クラスの子供たちが、同じ教科書を使えるようになり、音読を日本語指導の基本とした取り組みが、計画的、継続的に始められることになった。授業での音読指導は、できるだけクラス全員に読ませるような配慮と、良い点を見つけて必ず褒めて励ます言葉がけをすることなどを、国語教師勉強会で申し合わせた。家庭では、毎回宿題として出される音読を聞いて、感想を音読カードに記入してもらうことにした。取り組み始めて2、3週間が過ぎたころから、子供たちに次のような変化が表れてきた。

まず、授業中の学習態度が違ってきたのである。これまでは、

授業中に教科書の音読をしたり質問に答えたりするのは、両親ともに日本人の子供たちがほとんどで、国際結婚家庭の子供たちは、少し気後れしたように発言をしない傾向があった。それが、自分から挙手をして積極的に音読をするようになり、教師の質問にも、すぐに答えられるようになった。あらかじめ家庭で練習をすることで、ひらがなや漢字もすらすらと読めるようになるとともに、助詞の使い方などにも慣れて、人前でも音読や発言をする自信がついてきたのだと思う。また、音読による予習をしているので、授業中の説明を聞き取ることや、まとめの読解プリントへの記入も戸惑うことなくできるようになった。クラスによる差はあると思われるが、しだいに落ち着いて授業に臨む子供が増え、理解不足から不安定になる子は少なくなってきた。

こうした日ごろの音読練習の集大成は、1学期末の学習発表会と、学年末の音読発表会である。各クラスの子供たちが、堂々と音読を発表する姿に、ビデオやカメラを手にした客席の保護者たちから、大きな賞賛の拍手が贈られる。ことあるごとに、音読練習で自信がついたのか、家庭でも日本語を積極的に話すようになったという保護者の声を聞くと、まさに、「継続は力なり」の言葉通り、家庭での支援が子供たちの日本語力の向上につながることを確信するのである。さすがに、思春期の中学生や高校生になると、保護者に音読を聞かせるのが恥ずかしくなり、小説や評論などは、読むのにも時間がかかるために、音読は自分自身でできるようになる。さらに、バカロレア(高校卒業試験)準備クラスでは、本番の口頭試験において日本語でのテキストの音読が得点の対象ともなることから、筆記試験の準備とともに真剣な取り組みがなされている。



天理日仏文化協会 パリ天理語学センター こども日本語講座 資料

### 音読カード

とてよよかった ● よかった ○ もうすこし △

題名(だいめい)	回数	購入日 月/日	すらすら 読めた	はっきり 読めた	や、を あけて読めた	家の人のサイトと ひとこと	担任の サイン
	①	/					
	②	/					
	③	/					
	④	/					
	⑤	/					
	①	/					
	②	/					
	③	/					
	④	/					
	⑤	/					
	①	/					
	②	/					
	③	/					
	④	/					
	⑤	/					
	①	/					
	②	/					
	③	/					
	④	/					
	⑤	/					

ECOLE DE LANGUES DE TENRI 8-12, rue Bertin Poite 75001 Paris TEL: 01 44 79 06 06 kodomo@tenri-paris.com